

A

●高い改善マインドでSDGsに関する取組みを次々と実践！

15

協同組合 関給食センター

住 所	〒501-3824 岐阜県関市東新町5丁目903番地		
U R L	http://sekicook.or.jp/		
設 立	昭和37年8月	主 な 業 種	食品製造業
組 合 員 数	171人	出 資 金	64,110千円

■背景・目的

当組合は地場産業である刃物関連事業者を中心とした組合員向けに弁当を提供してきたが、一方で当組合が提供する商品(弁当)は同質化しやすい性質を持ち、価格競争が激しい。そのため、継続的な製造原価低減や商品の付加価値向上は、当組合における大きな課題である。この課題解決にあたり、SDGsに関連付けて取り組むことで環境問題等にも貢献できるのでは、との思いから実施に至った。

■取組みの手法と内容

2018年に就任した松岡専務のもと、年2回(4月・10月)の個人面談や毎月の職位別会議(幹部会議、係長会議、主任会議など)の実施、テーマ別の会議体(献立会議、食品ロス対策プロジェクトなど)の形成など、組織の課題解決に向けたコミュニケーションを活性化する取組みを推進してきた。

開始当初は、会議や新たな改善策の検討・実施に対して前向きではないメンバーも一定数いたものの、根気よく取り組みを続けることで、改善意識と改善の仕組み(PDCA)が組織全体に浸透していった。

現在では、SDGsに関連するテーマも含めた改善提案がボトムアップで生み出される風土が醸成されている。

その組織風土のもと「残飯発生量の減少」「規格外野菜の有効活用」など、食品ロス削減(関連SDGsターゲット12.3)に関する取組み、「ビニール製バランから紙製バランへの変更」など脱プラスチック(関連SDGsターゲット14.1)に関する取組み、「重油ボイラーからガスボイラーへの設備変更」などエネルギー効率向上や温室効果ガス削減(関連SDGsターゲット7.3)に関する取組み、「完全消滅型生ごみ処理機の導入」など廃棄物の削減(関連SDGsターゲット12.5)に関する取組みなど、数多くの具体的な取組みを次々と実施し、環境関連を中心としたSDGsゴール及びターゲットに対して貢献が見られるようになってきている。これらの活動は商品の付加価値向上やコスト削減という組合運営にも貢献しており、具体的な数値等の成果については今後明らかになってくる見通しである。

■成果とその要因

単に会議体を増やすことは、改善に有効につながらないことも多い。当組織での成功要因は、会議前に明確な改善テーマが設定されていること、会議後の改善効果検証が確実に実施されていることである。特にPDCAの内、忘れられがちなC・Aを強く意識した仕組みづくりがされており、それが改善策立案や実施へのモチベーション向上という成果に結びついている。



JAめぐみのと組合が規格外野菜活用の連携協定を締結する様子



規格外野菜(なす)を使用した組合の弁当

Point!

改善意識と改善の仕組み(PDCA)が組織全体に浸透しており、SDGsに関連するテーマも含めた改善提案がボトムアップで生み出される風土が醸成されていること。